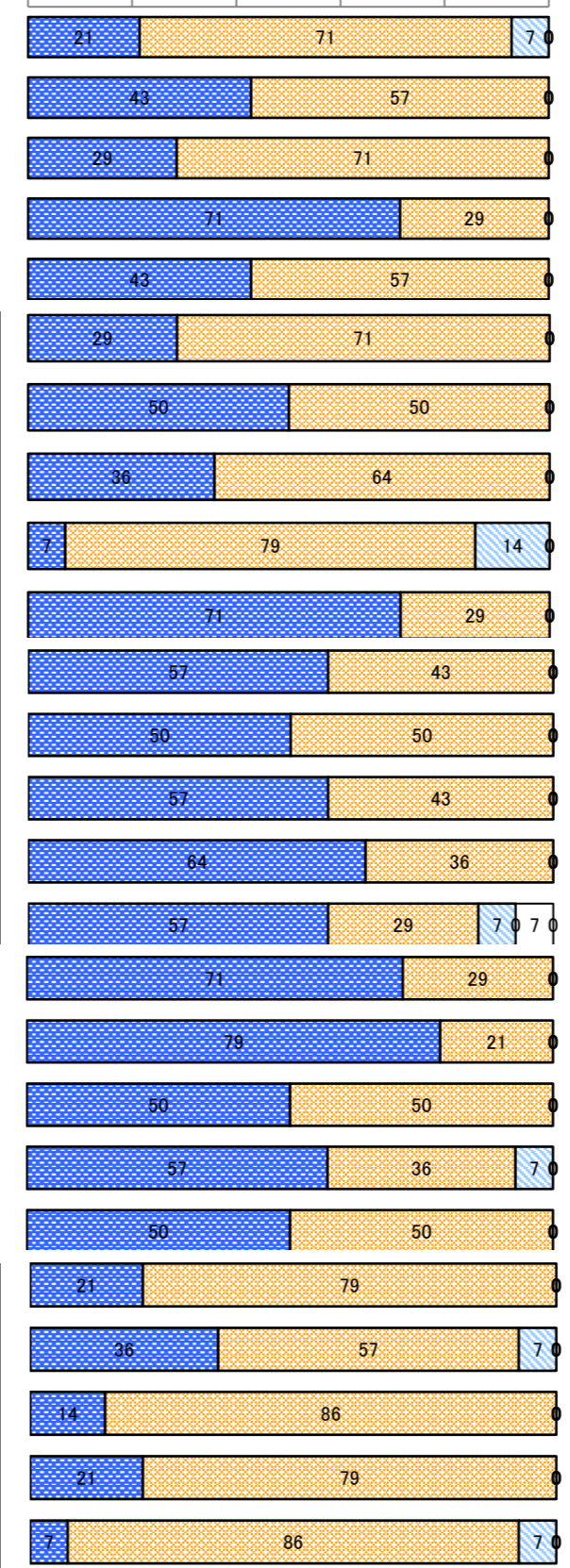
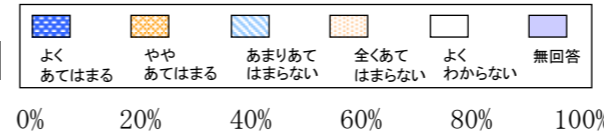


令和6年度 『学校評価アンケートの結果』 と 『自己評価』

荒川区立第二瑞光小学校小学校

アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よく分からない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	39	43	11	2	5	0
	2	児童・生徒の様子	68	24	5	1	1	0
	3	基本的な生活習慣	46	42	9	1	1	0
	4	児童・生徒理解	38	46	11	3	2	0
	5	健康・安全・安心	63	28	6	2	1	0
学力向上の取組	6	分かる授業	57	34	8	0	1	0
	7	個に応じた指導	62	30	4	3	2	0
	8	学習習慣	61	25	10	3	0	0
	9	情報教育	46	37	15	1	1	0
	10	学校図書館の活用	51	39	7	2	1	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	57	38	3	0	2	0
	12	道徳教育	46	35	14	3	3	0
	13	教育相談	47	24	15	4	9	0
	14	人間関係づくり	75	18	5	1	1	0
	15	自主的な活動	51	39	9	0	1	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	52	22	11	2	14	0
	17	相談への対応	60	29	6	2	3	0
	18	学校への参加	54	27	11	2	6	0
	19	地域との連携	42	30	15	5	7	0
	20	意見の反映	49	31	6	2	11	0
各学校の特色ある教育	21	主体的に学ぶ態度	50	39	6	3	3	0
	22	調べ学習の充実	38	34	23	4	1	0
	23	聞く態度	55	36	7	1	1	0
	24	誰とでも協力できる心情	48	38	9	1	4	0
	25	前向きに生活する態度	53	36	7	3	1	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

児童の回答が増えてしまった。学校生活の中で、教育目標についての説明はほとんどしておらず、今後は合言葉だけでなく目標も意識させていく

昨年度とほぼ同じ数値だった。今後はさらに児童が楽しいと感じられる学校を目指し取り組んでいく。

挨拶や返事がしっかりできるかという設問。昨年度同様90%の児童が肯定的に捉えている。少しずつ改善されてきた感じはするが、まだ、自分から元気のいい挨拶は難しい児童が多い。今後100%を目指し取り組んでいく

先生から褒められたり励まされたりしているかという設問。保護者の数値がやや下がったが、児童は変わらない。教師は認め励ましているが、児童がそう感じられるようにすることが必要。

学校は元気で楽しく過ごせるかという設問。昨年同様90%の児童が肯定的な回答だが、これも100%を目指していきたい。

児童のABが多いことが見て分かる。特にAは昨年度より3ポイント増えた。しかしCDも一定数いることから引き続き楽しく分かる授業を目指して授業を行えるよう努力していく。

児童のAが昨年度より8ポイント上がった。特に算数での習熟度別学習では、レディネステストの結果をもとに、理解の程度に応じた指導展開を行い、分かる授業を行っていることを児童が理解して取り組んでいることが分かる。

保護者のAが昨年度より上がっているが、CDも増えている。放課後は学年の学習内容を補う寺子屋だけではなく、英語の取り組みを始めた。今後も保護者に周知するなど努めていく。

学校ではそれぞれの学級でICTの効果的な方法を考えながら使用しているが、不具合があることも多々あるのが事実。来年度から児童用TPCが新しくなることもあり、新たな活用方法を考えて授業で活用できるよう努力していく。

教員のポイントが8%増えている一方、保護者の伸びは低く、本校の図書館活用について周知できていないことが課題。今年度は新しい図書室開設まで図書室が使用できなかったことも考えられるが、取り組みを周知できるよう努める。

相手を大切にしていると応えた児童が95%と、昨年度よりさらに数値があがった。100%を目指してこれからも心の教育を行っていく。

肯定的な回答が、児童、保護者共に昨年度と数値はほとんど変わらないが、「よくあてはまる」と答えた児童が11ポイント上がった。これからも道徳授業地区公開講座を保護者や地域への道徳教育の発信の場として位置づけていく。

信頼できる先生がいるかという設問に対しての回答で、数値は昨年度と変わっていない。いないと答えている児童が19%いるので、今後も信頼関係を構築することに努めていきたい。

学校行事が楽しいかという設問に対して、児童、保護者共に肯定的な回答が多い。コロナ禍による活動の制限がなくなり、以前のような活動が行われるようになったことが高評価につながった。

係や当番活動をきちんとやっているかという問いに対して、昨年度同様、責任をもって取り組んでいることが分かる。

児童保護者ともに、Bが若干減少、Cが若干増加。学年たよりと学校たよりを統一化、スクリーンでの情報発信などの慣れや、使い勝手などの感じ方に差があると思われる。

児童保護者ともに、Bが若干減少、Cが若干増加。このBCが相談しにくいと感じたのか、相談したが物足りない対応だったのか。今後も丁寧に対応を心がけていく。

児童保護者ともに、高評価。今後も保護者が参加しやすい工夫を続けていく。

保護者の「よくわからない」が多いものの、できる範囲で連携を心がけている。今後も、学校と地域が連携し、児童を育成できるよう協力していく。

保護者の「よくわからない」が減少したもののAが少ないことから、学校からの説明不足がうかがえる。学校便り等の発信だけでなく、保護者の方には保護者会に参加していただき、そこでも共有していきたい。

昨年度よりも「よくあてはまる」、「ややあてはまる」の肯定的な児童の回答の合計が、4ポイント上がり、保護者の肯定的な回答も上がっている。引き続き見直しをもたせる工夫をして主体的に学ぶ児童を育てていく。

「よくあてはまる」、「ややあてはまる」の肯定的な回答は、昨年度より児童、保護者共に少し下回る結果となった。夏季休業前から11月まで学校図書館の移動による休館のことも考えられるが、児童の興味や意欲を引き出す活動を取り入れ、主体的に学ぶ児童を育てていく必要がある。

昨年度と「よくあてはまる」、「ややあてはまる」の肯定的な回答は児童、保護者ともほぼ変わりなかった。引き続き、授業でも対話を多く取り入れ、人の話を聞く時の態度や表情など細かいところから丁寧に指導していく。

昨年度と「よくあてはまる」、「ややあてはまる」の肯定的な回答は児童、保護者とも3ポイントほど減ったが、ほぼ変わらないので、今後も各教科や道徳の授業、たてわり班活動などの全教育活動と関連させて協力することや相手の気持ちを考えることの大切さを指導していく。

昨年度よりも「よくあてはまる」、「ややあてはまる」の肯定的な回答は児童で14ポイント、保護者で5ポイント上がっている。児童の頑張りを日頃から評価していることの成果が現れているので、引き続き行い、児童の自己肯定感を高めていく。